



泌尿器科

教授、医療連携・患者支援
センター長併任
鈴木 啓悦
すずき・ひろよし●1990年千葉大学卒業。日本泌尿器科学会評議員、泌尿器内視鏡学会評議員、日本アンドロジー学会評議員、泌尿器腫瘍放射線研究会運営委員など



眼科

教授
前野 貴俊
まえの・たかとし●1987年大阪医科大学卒業。2009年より東邦大学医療センター佐倉病院眼科教授、日本眼科学会認定指導医など



眼科で行う網膜硝子体手術。3つの穴から機械を送り込み、硝子体や網膜を治療する



INFORMATION

診療科目：内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、循環器外科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科(田上恵)、神経小児科、消化器外科、消化器内科

受付時間：【初診】8:30~11:00 【再診】8:30~11:30
※第3土曜日除く

休診日：日・祝・第3土・年末年始(12/29~1/3)・創立記念日(6/10)
病床数：一般病床451床

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564-1
TEL.043-462-8811(代表)
http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp/

表れている診療科として眼科が挙げられる。「開院時より、網膜硝子体手術を柱に発展してきたこともあります。当科には糖尿病網膜症に代表される難治性の網膜硝子体疾患の方が数多く紹介されれます」と語るのは眼科の前野貴俊教授。眼内に機器を挿入して、硝子体や網膜を治療する網膜硝子体手術は、繊細な操作が求められる上、細菌感染による眼内炎や外傷など、救急性を要するケースも多い。それに対応できるよう、同科では高い技術を持つ6名の医師により、即日の入院・手術も可能な体制を構築。感染・外傷で混濁した症例

に対する角膜移植も行うことで、大抵の症例に対応していくという。もちろん、白内障や緑内障、角膜感染症など、他の眼疾患の治療も幅広く行っている。

同科は、低侵襲手術への取り組みも積極的に進めている。「網膜硝子体手術における切開の大きさが従来の0・9ミリから0・6ミリや0・5ミリまで小さくなり、術後に傷を縫う必要がなくなりました。眼球を糸で縫うと、変形して乱視が出やすくなります。それが防げるようになるほか、視力が改善するまでの期間も短縮されます」と語る前野教授。この、低侵襲治療を目指す姿勢は、

硝子体手術以外にも徹底しており、2011年には肠道への内視鏡治療も導入された。涙が排出される肠道の閉塞を内視鏡を使って目視下で処置することが可能になり、より正確な治療を実現できるのだ。

地域で患者を診るために
医療連携の強化を目指す

同院は、開院以来高度な地域医療を提供し続け、2011年には開院20周年を迎えた。「今まで、「いい医療とは何か」を考え、その実現を第一に考えてきました」と加藤良二病院長は振り返る。その一環として同院では早期より安全管理

に力を入れ、全国に先駆けて医療安全管理委員会も設置。全スタッフの安全管理に対する意識も高く、毎月の研修会は、200~250人程度、大規模で開催されている。現在では、厚生労働省によって年2回の研修が義務づけられるようになつたが、これだけの規模で実施する医療機関は全国でもめずらしい。

そして、今後の取り組みとして、加藤病院長は医療連携の強化を擧げる。「この地域は、当院以外に救急医療の受け入れ体制が整つておらず、急性期医療から慢性期医療、あるいは在宅医療



東邦大学
医療センター

佐倉病院

地域の中核病院として
最新の泌尿器疾患治療や
難症例に対する眼科治療を提供

救急対応を含めた
泌尿器科の取り組み

大学病院として教育・研究・診療を柱とし、高度な医療を実践する東邦大学医療センター佐倉病院。同院は中核病院としての役割を担っており、医療連携・患者支援センターによる他医療機関との連携を積極的に進めている。代表的な例が鈴木啓悦教授率いる泌尿器科の取り組みだろう。「千葉県では、日本泌尿器科学会認定専門医が少ないなど、泌尿器科医師の人員が足りないのが現状です」と鈴木教授。それを補うため、同科では直近20キロ圏内の病院に医師を派遣し、かかりつけ

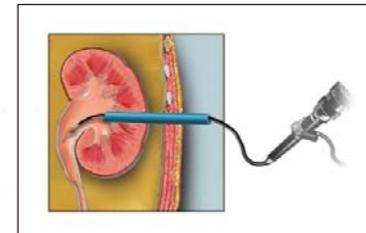
医の役割も果たすという。同科は治療においても、地域のあらゆるニーズに対応することを心がける。中でも重要なのが救急搬送への対応だ。「救急搬送の理由として尿路結石があります。あまり知られていませんが、全身疾患を持つ高齢の方は、結石から生死に関わる敗血症を併発することもあるのです」と鈴木教授は指摘する。そのため、同科では從来より行ってきた体外衝撃波結石破碎術に加えて経尿管的・経皮的結石破碎術も導入し、緊急手術や患者に優しい治療を提供している。また、外来で多い、前立腺肥大症や過活動膀胱などの排尿障害への治療も重視し、

薬物療法、経尿道的内視鏡手術などを実施。神経疾患が原因の排尿障害にも対応できるよう、神経内科とも協力して検査を行う。

がんに対して、手術や抗がん剤、さらには腫瘍に放射線を集中照射する重粒子線治療などの放射線治療を活用した高度な治療を実践する。特に力を入れているのが腹腔鏡下手術だ。同手術を的確に行うためには医師の経験が何よりも重要なことから、同科には数多くの腹腔鏡下手術に携わってきた鈴木教授のほか、日本泌尿器科学会の厳しい基準に基づいて技術を学んだ医師が3名在籍している。

高度な眼疾患治療
網膜硝子体手術を柱とする

また、同院の高い技術が



ホルミウムヤグレーザーを用いた経皮的腎碎石術。腰背部から内視鏡を挿入して結石を破碎する



病院長 加藤 良二

かとう・りょうじ●1979年群馬大学卒業。2012年より東邦大学医療センター佐倉病院院長。日本腫瘍学会理事、日本気管食道科学会理事、日本外科系連合学会評議員、日本臨床外科学会評議員、日本肺癌学会評議員、がん集学的治療研究財団評議員など

